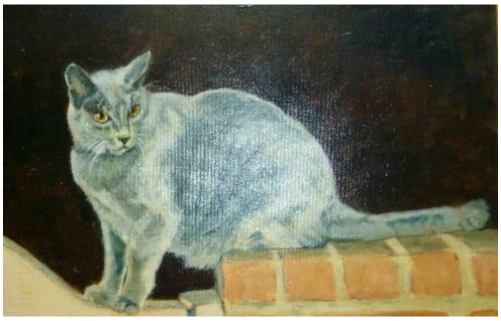
サノックスの目安箱　「コロナと私」



第 031 号　2021 年 4 月 7 日　義平真心

コロナ禍だからこそできること

浅草近くの山谷で、まちづくり事業活動・ボランティア活動を行っています。

山谷は、コロナ禍となる前は外国人も多い多様性のまちでした。路上で飲んでゴミを捨てる人も多い土地柄なので、山谷のおじさんたちと外国人も含めたボランティアと共に、地域清掃を 2018 年 4 月より続けています。　コロナ禍の現在、観光客は大幅に減少、宿泊業は1軒を休館しつつ、この時期だからこそと野宿の人の支援を行っています。

今の野宿の人はある意味、自立的です。生活保護に頼るのでなく「自分で働いて食っていきたい」とおっしゃる方が多く、背景には貧困ビジネスの施設の存在等の理由があります（参照:https://camp-fire.jp/projects/view/371320）。

生活保護受給中の方も、勤労控除分を超えて働くと後に保護費から引かれるため勤労意欲を失いがちです。金銭管理が難しい人が多いので、「働いたら損をする」という感覚は通常で考えるよりも大きくなるようです。

一人ひとりの健康状態、勤労意欲等にあわせ、例えば医療扶助と住宅扶助のみで生活費は自分で稼ぐ等、生活保護の支給を柔軟にできれば、尊厳を損なうことなく、路上でもなく、地域生活を続けられるのはないかと考えています。**「個の尊重」**こそ、ホームレス支援だけではなく、格差がすすむ今の日本社会においては、一人ひとりの在り方を活かすために必要なことではないかと思います。

よしひらまごころ
義平真心　（一般社団法人 結 YUI　代表理事）